

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第564号 平成25年6月21日

最低評価3年でクビ!?

自民党の行政改革推進本部がまとめた公務員制度改革の原案が、報道で明らかとなっています（5月22日付北海道新聞他）。

その概要は、以下の通りです。

①内閣人事局

2008年成立の国家公務員制度改革基本法には、内閣人事局の早期設置が規定されているが、設置に向けた検討は具体化していない。政治に対する不信を増幅させないためにも、早急かつ丁寧に検討を進めていく必要がある。

②新評価制度

民間企業の先進事例も参考に制度・運用の改善・向上を図る。具体的にどのような職員が下位評価に該当するかの基準を明確化して評価の客観性を確保し、最下位の評価となった職員に対し成績向上の措置を講ずる。

人事評価の結果を昇給、勤勉手当などに適切に反映させ、優秀と認められる者の中から最適任者を昇任させる。勤務実態が不良である者には注意・指導を行い、改善が見られない者は分限（降任・免職）処分を行う。

連続3年間最下位の評価の場合には、分限免職処分とする。地方公務員も同様の改革を実施する。

③組織の活性化

早期退職募集制度の活用と民間再就職支援会社を活用した再就職支援の導入により、自発的な早期退職を促進し、退職手当の見直しを含む施策を検討する。官民人事交流などを推進し、キャリアパスの多様化を図る

④給与

人事院勧告制度を尊重する。基本法に国民理解を前提とした労働基本権の規定はあるが、現状では国民の理解が得られていない。給与体系を能力・実績に応じてより差がつく仕組みとする。

⑤今後の進め方

公務員制度改革に関する委員会を設置し、夏以降ヒアリングを行う。提言内容の進捗状況を本年後半に点検・検証し、可能なものから早急に結論を得る。

以上のように、今回の改革案については、能力主義や実績主義を導入した新たな

人事評価制度の下で、公務員に対する意識改革と組織の活性化を図ろうとしているものと思います。

参議院選挙を控え、公務員に対して厳しい姿勢を示しても誰も文句はいいませんし、改革に対する積極姿勢をアピールしようとしているのでしょう。

勿論私も、公務員制度が今のままで良いとは思っていません。

つい先日も、東日本大震災の復興を担当する復興庁の幹部職員が、ツイッターで被災地の住民団体などを誹謗・中傷していた事が発覚し更迭されるという事態が発生しました。あの人も無げな言動を見ていると、こんな人間が公務員であること自体許されるとは思えませんが、歪んだキャリア制度、人事管理の甘さが突出した形で出て来たのではないかと懸念しています。

ここまで酷いケースではなくても、日々の仕事に関して、真面目に働いても働かなくて同じように処遇されるというのでは、職員の士気の低下は避けられません。その意味で、民間企業の例も参考に評価基準を明確にし、適切な人事管理を行う必要がある事は確かだと思います。

特に、今回の原案の中で特徴的なのは、「人事評価を昇給やボーナスに適切に反映させると共に、3年連続最下位評価となった様な場合には「分限免職」に出来ると明記するなど、徹底した成績主義の導入といえます。

「分限免職」というのは、公務員に対する処分の1つで、

① 勤務成績が良くない場合

② 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
の他、

③ その職に必要な適格性を欠く場合

に免職できる事とされています（地方公民法28条）。

この様に、現行の制度においても、成績が悪い場合には免職処分が可能とされていますが、現実には運用基準が明確でない為、勤務成績不良につき免職となる事例はほとんどありません。これが、公務員は身分保障によって過度に守られているという国民の批判を招く要因ともなっています。

過度な身分保障には弊害が大きい事はいふ迄もありませんが、ただ私は、「公務員の身分保障制度」は、職務の公共性や行政の継続性、更には政治的中立性を維持する上で一定の役割を担っていると考えていますので、公務員制度改革を議論する際には、この点を十分考慮に入れて検討していただきたいと思っています。

また、職員評価を行う際、何を持って優秀とするのか判断の基準を明確にしなければなりませんし、評価する側の評価能力も信頼が得られるものでなければなりません。評価制度は、評価する方もされる方も、共に納得出来るものでなければ実効性は期し難いと思います。

公務員制度における評価制度の導入は必然だと思っておりますが、私が懸念するのは、制度の形骸化です。「最低評価3年で首」といいながら、そんな事にならないように組織内部で「最低評価の持ち回り」という姑息な事が起こらないとは限りません。

そうならない為にも、評価制度の客観性、公平性、公正性が担保できる仕組みづくりについて、しっかりと検討していただきたいと思います。(塾頭：吉田 洋一)